

平和宣言

いま世界は、現代人がかつて経験したことの無い危機に直面しています。

昨年2019年12月、病原体が特定されていない肺炎が報告され、その後、新型コロナウイルス感染症と称されるこの病気は、瞬く間に世界中にひろがりました。現在までに死者数は約90万人以上にのぼり、いまなお感染の勢いは収まる様子を見せていません。

このような中、歳月は人を待たず流れ、本年も9月18日を迎えました。本日ここ国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑において関係者が集い、第40回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要を修行いたします。特にこの厳しい状況の中で、終戦75年という節目のご法要を行うことの意義を改めて考えることは大切なことです。

私たち浄土真宗本願寺派は、戦後70年にあたる2015年、「平和に関する論点整理」を発表しました。その中で、公平・平等・信教の自由を含む人権の尊重・飢餓の克服・環境問題など、争いを引き起こす構造的な課題を解決することで成り立つ「平和」、すなわち「積極的平和」の必要性を指摘しました。しかしながら、マスクや日用品を我先にと買い占める姿や、それらを転売する行為が報道されたり、感染者に対して苦しみを共有しようとせずに、その家族までも排除しようとする行為が話題になるなど、新型コロナウイルス感染症は、人間の内面に潜む自己中心性をあらわにさせ、他のいのちの尊厳を冒す人間の無明煩惱がもたらす姿を改めて明らかにしています。

専如ご門主は ご親教「念仏者の生き方」において、
「テロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積していますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります」
とお示しになりました。

宗祖親鸞聖人のみ教えを、わかりやすく示されたこのご門主のお言葉は、いままさに世界中で起こっている差別や紛争、貧困や環境破壊など、これらの問題は自己中心的な心で行動してしまう私たち人間の内面にこそ、その原因があるとの鋭いご指摘と受け止めなければなりません。

またご門主は、同じご親教で

「仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を『諸行無常』と『縁起』という言葉で表します。（中略）『縁起』とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあって存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません」

とご教示になっています。

次のような俳句があります。

「降りだして 田植えいよいよ にぎやかに」（長山秋生）

空と大地と水と、そのつながりの中で人も生きています。食材に恵まれ、無事、食べられる。水も喉を通ってくださる。そのお蔭で、いま生きています。人はみな縁起する事実の中で生かされ、いのち在らしめられているのです。しかも大事なことは、すべての現象は縁起していますから、変わらない固定したすがた・かたちは何もないということです。

ですから、仏さまのように完全にはできなくても、私たちは、縁起というありのままの真実に教え導かれ、精進するのです。自他をわけ、かまえ、執われ、対立する心を限りなくおさえ、人と喜びや悲しみを分かち合うなど、日々に精いっぱいつとめるのです。対立や排除ではなく、心を通い合わせ、痛みを分け合い、協力し合って生きていく社会の実現に向け共に努力する先にこそ、この厳しい苦難を乗り越え、平和をより確かなものにする道が切り開かれていくことでしょう。

本日、この同じ時に全国各地の寺院から、平和の鐘の音が鳴り響きます。鐘の響きに込められた私たちの願いが、世界へ、子や孫へ届いてゆくよう、共に精いっぱいつとめてまいりましょう。

2020（令和2）年9月18日

浄土真宗本願寺派

総長 石上智康